

令和 4 年 2 月 28 日

報道関係各位

News Release

明
薬

明治薬科大学 本学の教員の研究活動とSDGsについて

明治薬科大学では、SDGs(持続可能な開発目標)への取り組みを行っております。
今般、関連ホームページに本学教員の活動等を追加しましたので、ご報告申し上げます。



お問い合わせ先:学校法人明治薬科大学 広報課
東京都清瀬市野塩 2-522-1
TEL.042-495-8615 FAX.042-495-8612
担当:高橋 靖拡
(eメール) koho@my-pharm.ac.jp

学校法人 明治薬科大学

明治薬科大学の教員の研究活動とSDGs

明治薬科大学では、理事会、教職員及び学生が一体となって、SDGs への取り組みを推進しております。

これまで、本学のSDGs関連ホームページでは「本学の新型コロナワクチン接種ボランティア活動」、「学生ボランティアによる地域貢献活動」、「本学独自の市民公開講座などによる健康啓発事業」、「清瀬キャンパスの太陽光発電システム」などをご紹介して参りましたが、今般、ここに本学教員の研究活動等を追加しましたので、ご案内申し上げます。

今回、追加いたしました内容は、例えば、

超分子のちからで新しい創薬技術を切り開く(薬化学研究室)

→SDGs 目標 3;すべての人に健康と福祉を/目標 9;産業と技術革新の基盤をつくろう

など、薬学部ならではの基礎的研究テーマの他、

「薬物治療の価値は、その価格に見合うものなのか？」を考える -薬剤経済学- (公衆衛生・疫学研究室)

→SDGs 目標 3;すべての人に健康と福祉を

健康増進、疾患制御、そして宇宙(微生物学研究室)

→SDGs 目標 3;すべての人に健康と福祉を/目標 9;産業と技術革新の基盤をつくろう/目標 12;つくる責任 つかう責任

など、一般の方々の日常生活により身近なテーマもございます。

詳細は以下をご覧ください。

<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/sdgs/index.html>

(本学ホームページのトップページにも、ご案内のリンクやバナーがあります。)

これらのコンテンツを通して、本学の幅広い活動と社会貢献について、ご理解をいただければ幸いです。

学校法人明治薬科大学 理事長 佐川 賢一
明治薬科大学 学 長 越前 宏俊

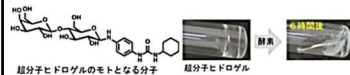
超分子のちからで新しい創薬技術を切り開く

山中 正道 教授 薬化学研究室



2022/02/08

近年、新薬の開発研究はますます困難なものとなっており、ある化合物が新薬として発売される確率は、3万分の1ともいわれています。我々はこのような困難な課題を、超分子という武器によって解決しようと研究を行っています。超分子とは、小さな分子がたくさん集まり、複雑な構造や機能を持った集合体をつくる研究分野です。我々は、多量の水を含んだ材料である超分子ヒドロゲルによって、新薬開発の困難さを軽減したいと考えています。超分子ヒドロゲルは、素となる分子を精密に設計することで色々な機能を付与することができます。現在、クサリの成分を目的の部位にまで選別し放出する機能をもった超分子ヒドロゲルの開発に取り組んでいます。



「薬物治療の価値は、その価格に見合うものなのか？」 を考える ー薬剤経済学ー

赤沢 学 教授 公衆衛生・疫学研究室

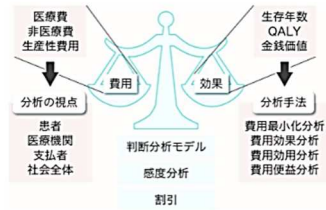


2022/02/02

お医者さんにかかった時の費用（医療費）は誰が払うのか考えたことはありますか？

日本では、誰でも、質の高い医療を、比較的安く受ける事が出来ます。これは、皆さんが加入している健康保険制度があるおかげです。しかし、治療に使う医薬品、それを扱う医療提供者、それに支払うお金といった医療資源は無敵ではありません。薬剤経済学は、限りがある医療資源を効率的に使うために、薬物治療を提供するために必要なお金と薬物治療によって得られる健康効果を天秤にかけて、その費用対効果を客観的に評価する学問です。研究成果は、健康保険でカバーする医薬品の価格設定、医療機関で採用する医薬品等の選択、患者中心の医療の実現などに役立てられています。たくさんの方の医薬品の中から患者治療に最も適切なものを選んで使うことで、限られた医療資源の効率的な利用を実現でき、平等な医療を提供している公的医療保険制度（国民皆保険制度）を持続可能なものにしていきます。

薬剤経済学は、薬物治療にかかる費用と薬物治療によって避けられる費用や得られる効果を天秤にかけて比べる方法です。



「薬を扱うなら知っておきたい！薬剤経済ははじめの一步」：羊土社より
*「QALY」とは、健康な状態で生きることが出来る年数

健康増進、疾患制御、そして宇宙

杉田 隆 教授 微生物学研究室



2022/02/08

健全なマイクロバイオーンを構築して全ての人を健康に

微生物は人の様に言葉を使って会話をする事はできません。しかし、われわれが様々な方法で彼らの発する言葉を聞き取り、そしてそれを正しく理解することができれば必ずしも微生物も相互に支え合いながら、健全な社会集団の中で健康的に生活することができます。今、マイクロバイオーン研究の舞台は宇宙へも、地球を離れると微小重力環境となるので、お風呂やシャワーの無い生活を送ることになり、タオルで清拭することで身体を清潔に保ちます。火星への往復は最短で2年。より良い清拭技術の創成は宇宙開発には不可欠です。JAXAと共同で国際宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士の皮膚マイクロバイオーンを調査したところ、地球上とは異なる微生物社会が形成されていることが明らかになりました。世界に類を見ないスピードで超高齢社会を迎える我が国において、今後は入浴困難な高齢者が増えることが考えられます。このマイクロバイオーン研究の成果をもとに開発される身体清拭技術はこの様な現代社会への還元にもつながります。

